

社会参加 自分探しの旅

稲村遊歩道修理中

フェンス
倒壊

6月から発生した台風は21号、その半数以上が沖縄を含む列島に風水害をもたらしました。海水温上昇と時化(シケ)、川の氾濫や土砂崩れ、風や竜巻による電柱や家屋の倒壊など。自然災害と言いますが人災であるとの実感です。結果的に暮らしに仕事に大きな損害をもたらし、個人の自己防災には限界があります。地球の温暖化＝経済優先と政治の劣化、地域安全対策＝街づくり(住宅集中とインフラ)不備です。我が事として被災された方々のご心痛にお見舞い申し上げ、明日からの希望へ繋がります。我が家も微細ですがお隣のフェンスが半分壊れました。僕の応援するフリースクール Largo(鎌倉あそび基地 in 深沢)はSDGs＝Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)に小さな一歩を始めています。ローカルにかつグローバルに。

心の問題に止めない、その先の生き方が問われる 今

実は子ども若者の育ちの課題も人災です。”不登校””ひきこもり”とラベリングする排除、さらに”発達障がい”を原因背景に強調し不安を煽る教育/社会があります。その結果、親(保護者)や教師・カウンセラーが子ども若者を”追い込み”、家族や社会から離反させている現実は見逃せません。非民主的な社会が非科学的な”モラル”で親を教師を追い込み、追い込まれた親や教師が子ども若者を追い込む、構造化された被害者づくりが、今ここにあります。もちろん、多様な子どもの特性・症状を”発達障害”と精神医学・心理学が追究した「分析理論と理解治療」は受容し僕自身もカウンセリングワークに活用しています。

そこで最近の講演タイトルを並べます。本研究所と子ども若者応援団の活動で共に歩み交流した知恵や手立て、不登校・社会的ひきこもり・発達障害の子ども若者及び保護者の思いや生き方を、さらに確認し共有していただければ幸いです。

「不登校💖だから未来に夢ある道を実現」(逗子ゆずり葉の会 9/29)

「折れない心を育てるには 子どもの心を折らない大人になろう」(朝比奈小学校 10/3)

「思春期は大変です子どもも親も だから笑顔の親になるのです」(一本松小学校 10/16)

追い込み追い込まれる家庭と学校そして社会に気づき、心の問題にとどめない大人の生き方を問い続けたい。過去に振り返るがしがみつかない未来の生き方、今問われています。

コラム風

不登校💖だから未来に夢ある道を実現



橋本由美子さん等が子ども若者応援団の先を、逗子親の会として活動を広げています。今回不登校を理解し未来を描く講演をとの依頼を受けお話しした。桐ヶ谷覚逗子市長さん(左写真)にご参加ご挨拶をいただき、不登校に寄せる逗子市教育への期待感を抱きました。参加者は親御さん等37名。講演中に

橋本さん、島根三枝子さん(会員・ベテランママ)にもお話いただきました。以下に感想を引用しながら、当日の講演内容を紹介します。 *は感想 ◎は講演内容です

* 市民(逗子市)“止まる勇気”という言葉に特に感銘を受けました。私も同じですが、不登校であることを肯定的に捉えていくことがいかに大切なことかということがわかりました。不登校という名で呼ぶことができないお子さん、まだ目に入っていない辛く辛い思いをしているお子さんをどう見つけ、どう対応したらいいかというテーマでお話をお聞きしたいと思いました。

◎「私は勇気を出して学校を休んだのに、先生は勇気を出して学校へ来いという」自然災害や人災から逃げ(避難)します。精神的に追い込まれても同じ。「学校へ行かないと蔑まれ、将来への不安や絶望を抱きながら“勇気”を出して学校へ行かない」、それが不登校です。先生が使う“勇気”は「あなたは勇気がない人だ」と決めつける人格否定、追い込んでいます。

* 母(鎌倉市)「学校に行かなくてはならないという、大人自身の価値観の刷り込みが、子どもを苦しめる」ここは本当にそう思いました。自分も気を付けていこうと思いました。具体的に神奈川の高校は多様化している事を聞き、今、学校の勉強をプレッシャーに感じている娘にとって、前向きな情報がありがたかったです。

◎神奈川県は学校・フリースクール等連携協議会が13年歴史を積み、民間が委員長でNPO等9団体、教育行政等15組織で構成し学校と民間が連携した不登校支援体制を作っています。文科省通知と法律(国会)で「不登校は誰にも起こりうる」「不登校は問題行動と断定してはならない」「不登校児童生徒が悪いという根強い偏見を払拭」等と、不登校で自己肯定感を低下させている現状から、学校復帰だけではなく社会的自立支援(学び)を定めています。公立高校も多様で、単位制(総合)・多部制・通信制高校があり、入試も面接だけの学校もあります。全ての入試で調査書(内申書)に出席日数記載欄はなく、不登校の子どもへの成績配慮があります。私学はオープン入試(調査書不要)で対応、不登校経験者のクラスを用意する学校もあります。また費用面・施設環境面の課題はありますが通信制サポート校(ネット校)も増えています。さらに次年度より国(県)の就学支援制度(除外あり)が始まります。

* 母(横須賀市)自分の子どもは終わってしまったことですが、終わってみると、学校に行かなくても今があると思うのですが、その当時は子どものことを思って逆のことをしてしまっていました。今、悩んでいるお母さまには大丈夫と言いたいです。

◎憲法26条は“子どもの普通教育の権利”を、その2項で“保護する子女の義務を負う”とある。憲法の主語は「すべて国民は」、立憲主義とは国民が主人公、その代表者(国会議員・内閣)が権利と義務を負うのです。正確に読めば親の義務ではない。ゆえに「就学履行の義務履行の督促」を文科省は定め、正当な理由なく履行しない保護者に1万円の罰則を課している。正当な理由とは「不登校、事故や病気、等」とあり、不登校は保護者・親の義務違反にならないのです。また就学義務があり入学や転入の学校在籍義務手続きが課されています。修学ではないので、文科省は全国一律かつ複雑な学習指導要領を設けました。しかし不登校の通室施設:教育センター教室(例:ひだまり鎌倉, なぎさ逗子, ゆうゆう横須賀)は指導要領外に置かれ、学びは“自由”ですが…。

* 母(横浜市) 広い視野で子どもを感じていきたいと思いました。娘を面白がって、一緒にの時間にいろいろ気持ちがまわって、私の人生を面白がって生きていきたいと思いました。

◎思春期は大人への自我が目覚める複雑な時期。とくに家庭の“しつけ”、学校の“道徳”は結果的に表と裏の二重人格を求める現状を招いています。戦後から1980年頃までは思春期に大人は混乱し暴言暴力で丁寧? or 雑に寄り添っていました。しかし1980年代半ばか

橋本さん 島根さん 滝田



ら“良い子”づくりで裏表を演じる子どもが育ち、学校のいじめは最悪な状況を、ナイーブで傷つきやすい(だから“弱い”とも)不登校が増加しました。現在は共に最大です。

大人が子どもの不安や悩みに出番を感じなくなり、規律と決まりで子どもを縛る情けない大人になっています。目黒区の虐待死が典型です。子どもの混乱に大人の出番を喜ぶことです。余談ですが、改めて女子の生理、男子の射精を祝う、性や悩みもヨロコンデ♡です。

* 母(葉山町) 障がいのある子を持つ親です。子育てを通して、全ての子どもが「自分らしく生きる」ためにできる活動をしたいと親支援をしています。不登校が「自分らしく」の第一歩であると思い、勇気を持って選べたことがとても素晴らしく、ワクワクするものだと、未来も明るいと思えました。不登校を二次的なものとも思っているため、幼少期からの働きかけにも、より力を入れたいと思えました。



* 市民(逗子市) 「子どもには子どもの力がある」生きやすい道を選べる多様な道があることを伝えること、また子供を信じて待つ大人の勇気が必要だと思えました。学びはいつでも可能。◎障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(2013年制定・2016年施行)第1条「全ての障害者が、障害者でない者と等しく、基本的人権を享有する個人としてその尊厳が重んぜられ、その尊厳にふさわしい生活を保障される権利を有することを踏まえ、障害を理由とする差別の解消の推進…」が定められました。同年7月26日に津久井やまゆり園事件が起こりやりきれません。子どもは「育てる」から「育つ」へ。当然ですが“いつまでも子どものままだのではない、子どもは必ず大人になる”。だから“子どもには子どもの力がある、支援に頼らない自分の力がある”と。理解できると“子どもに示す大人の力がある、子どもが生きようとするモデルに”と大人は実感。葉山母曰く大人が「自分らしく」「勇気をもって」「ワクワクする」を歓迎。

身近な人の 平凡な人の苦しみや心情を

* 市民(逗子市)「学ぶことに時期はない」81歳の私も希望が持てました！

* 市民(逗子市)講演中に紹介された人は才能ある人ばかりで眩しすぎました。紹介されたAsamicroさんの朝ごはんのお話(「学校に行かなくても朝ごはん食べていいんだ」)は、本人の気持ちが変わりやすく解析され、不登校の子が負い目を持っていることにハッとしました。身近な人の、特に才能がない平凡なひきこもりの渦中の当事者の苦しみや心情を知りたいです。

* 母(葉山町) 息子が不登校だった30年近く前には聴くことのできなかつたような内容のお話でした。ずいぶん良くなっていますね。24歳までひきこもっていましたが、今は好きなことをやって自立しています。私よりしっかりしているなあ…と。

◎多様な背景の不登校の子どもたちの変化を紹介し僕の話の補強しました。紹介した不登校の子どもとの出会いは涙あり、悲しい出来事が。でも僕は「起きたら夕方、睡眠障害」「暴力をふるうアスペルガー」「うるさいクラスにいられない自閉症」「いじめを受け学校が不安な場に」…楽しく喜び歩んできました。そういう子どもが留学、執筆、ダンサー、ピアニスト、東大プロジェクト、バンド等など5年10年後の今を語れば、実に華々く成功事例！？否♡ 眩しく感じる大人の偏見です。共に寄り添ってきた僕としては凄いと実感。でも平凡を積み上げた生き方がそこにあるだけ、Asamicroさんの心境は経験者に同等にあり、渦中の人も同じです。今ある苦しみの心情は平凡な日々の積み重ねで未来へつながるのです。心の問題に押しとどめない。学ぶことに時期はない。未来を見る大人の応援を。(逗子市ゆずり葉の会より)

それぞれの風

○教師の集団指導で静かなクラス、落ち着き安心する子がいます。逆に先生の叱責や級友の厳しい態度に緊張を高める子がいます。教員の前ではいい子、裏表の使い分け、体内化するクラスの管理現象が生まれます。例えば忘れ物をした子への叱責や罰則が排除感へ、寛容を失いクラスの空気を変えます。なぜ？と問わないクラスには、周囲の子が叱られただけで自分が叱責された感覚となる子が生まれています。

○発達障がいの子どもへの対応。子どもには事情があり、今ここで追い込まない支援が必要です。騒いだ、皆の妨害した、次の瞬間「出ていちゃだめ！ 皆も真似しないでね」との教師の言動は分断を生みます。発達障がいの子をターゲット化し子どもを対立させる構造です。共生社会、インクルーシブ教育は手間暇かかります。時間をかけた特性の理解は、手の込んだ料理と同じでとって美味しくなります(笑)。

○ある講演会での参加者の感想をいただきました。

▶仕事(障がいのあるお子さんと接する)では、子どもの個性は大切と思っていながらも、反抗期の子どもには日々手を焼いていた。話を聞いて自分のひっかけが落ちたようだ。▶対大人だと聞き方・話し方を考えるが、子どもに対して考えないことが多かった。▶「大人が先に答えを言ってしまう」、「親が急ぎすぎている」。

ハッと気付かされる内容だった。▶障がいの有無に関係なく、対応は変わらないと感じた。

▶「親が悩んでいるのは二次的なもので、一番悩んでいるのは子ども」ということを聞いて、改めて気付くことが多くあった。▶子どもが幼い頃「この子の個性を伸ばしたい」と考えていたことを、先生の話聞いて思い出した。今は苦手を克服させようとしている。今後は視点を変えていこうと思う。▶子どもに共感し、寄り添い、もっと大きな視点で育てていこうと思った。

○横須賀応援団の代表龍崎さんと懇談しました。発達障害の支援教育と専門のプログラミング技術を子どもたちへ、活動を仕事化しながら転職して6か月の竜崎さんです。子ども若者応援団を本格始動したいとの熱い思いを語られました。特に7月 asamicro さんをゲストに講演とダンス公演会を開催し、その先の応援団会議を「マナビラキ(学ぶ+開く)」の場への進化をはかりたいと意気を挙げていました。そのテーマは、例えば「講演会：発達障がい認知理解の法的ケアの進め方」「研修会：地域での学習支援の目的と組織化について」「交流会：不登校の学校以外の学びの場の見つけ方」皆さんの知恵を応援団会議へお寄せください。



11月予定 ○3日(日)18:00、4日(月)13:00 & 18:00 3回公演:コンテンポラリーダンス公演 Laund(lyasamicro 松井麻美さん+minami+miho)in 渋谷 ○14日(木)19:00~横須賀市支援教育推進委員会 ○24日(日)13:30:逗子応援団会議 ひきこもり発信プロジェクト:新舩秀浩⇒ゆずり葉の会:橋本由美子 in 逗子市民交流センター ○ 日(日)14:00~16:00:横須賀応援団会議 龍崎明信 in 横須賀市民活動サポートセンター

○研究所開催日:7・14・21・28(木) ○鎌倉市5・8・12・13・15・19・20・22・26・29日

○Largo(鎌倉応援団)in ぶかぶか:19日(火)、14(木)

【発行編集:滝田衛】住所:鎌倉市七里ガ浜東2-31-12 携帯:09072124055

●メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp ●研究所ホームページ:<http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック:<https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>